



神戸天然物化学株式会社

2024年3月期第3四半期
決算補足説明資料

証券コード：6568

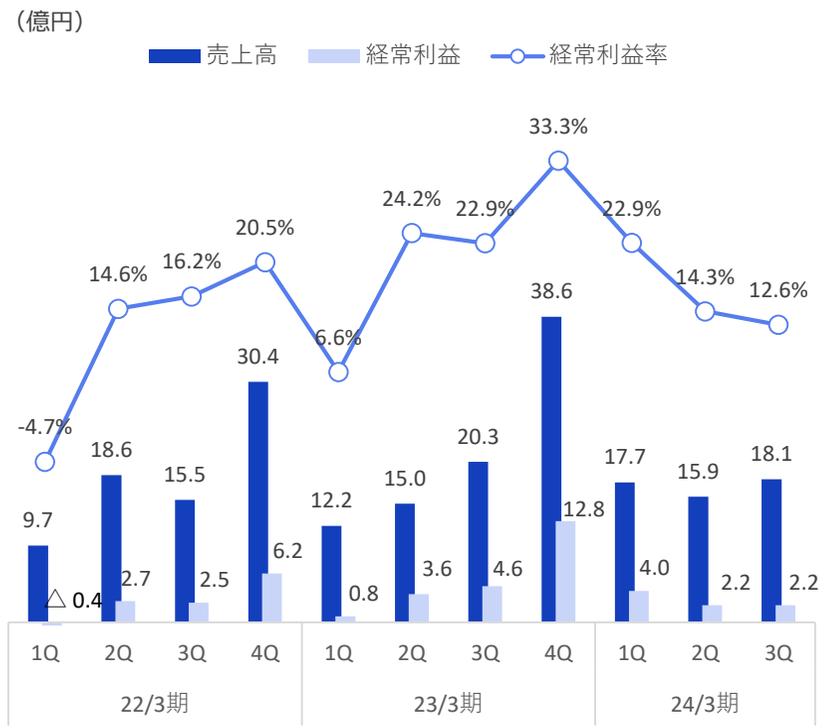
2024年02月09日



エグゼクティブサマリー①

- 3Q発生ベースでは製品構成差異の影響、租税公課増が重石となり対2Qで増収減益
- 3Q累計でも増収減益。機能材料は電子材料関連の在庫調整あるも、医薬・バイオの好調継続で増収確保。一方、人件費、設備保守費および租税公課増などは売上増で吸収できず

四半期推移



業況マトリックス (3Qまでの実績)

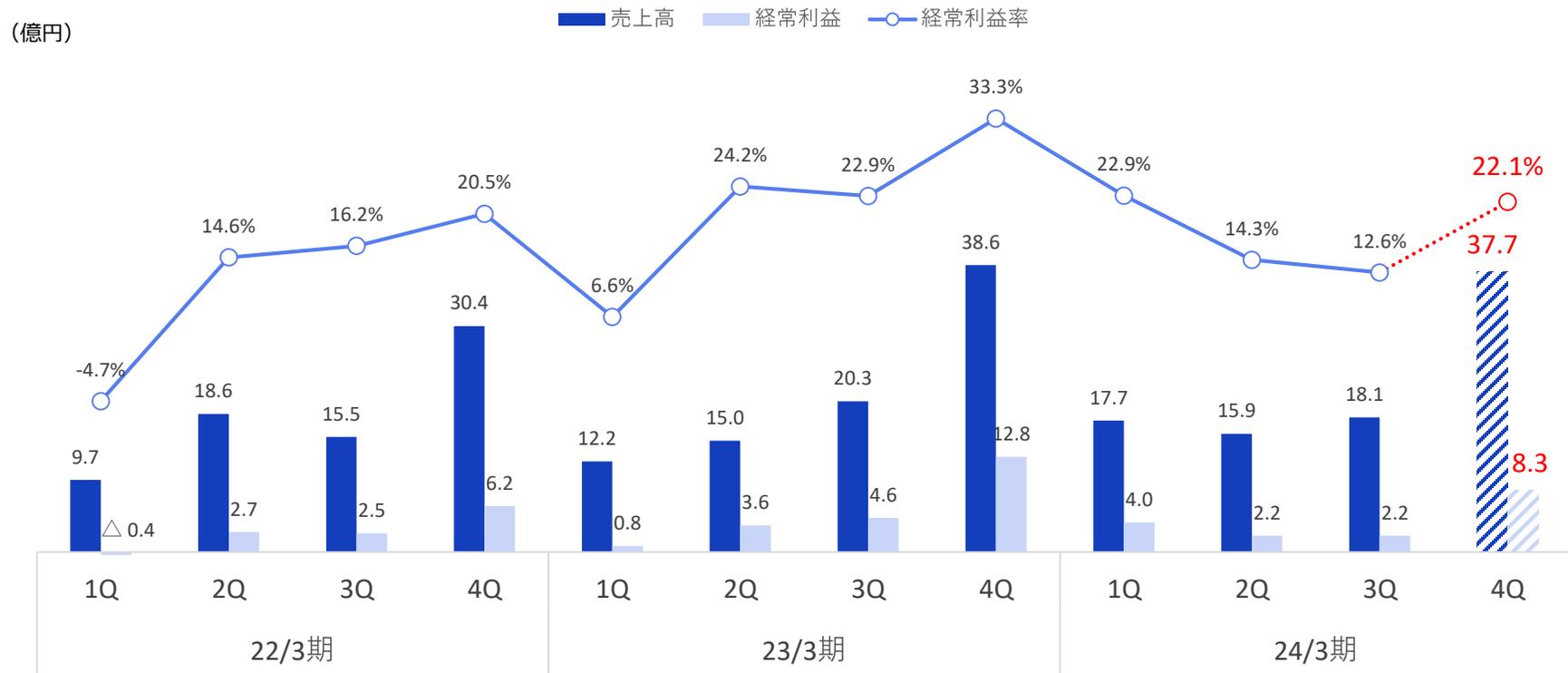
	機材	医薬	バイオ
量産	電子材料 在庫調整 医薬医療分野好調継続	定常品 出荷好調	好調に推移
開発	堅調に推移	大型開発品 出荷	堅調に推移
研究		堅調に推移	



エグゼクティブサマリー②

- 通期見通しは据置き。4%増収、23%経常減益を想定。販管費上昇は当初想定を上回るものの、懸念していた原材料・資材・エネルギーコストの上昇は限定的に留まり、影響は相殺される見通し
- 4Q発生ベースでは医薬の出荷集中を想定。例年通り利益率は上昇の見通し

四半期推移





1. 2024年3月期3Q決算概要



24/3期3Q累計決算の状況

- 3Q累計業績は売上高8.8%増、経常利益は5.2%減少
- 増収減益の主因は、機材分野の量産ステージ売上減や人件費や販管費などの増加が重石。販管費では特に租税効果増が想定以上に影響
- 対通期見通しの経常利益進捗率は50%。4Q偏重型である当社特性を勘案すれば、概ね想定範囲内

経営成績の推移

(百万円)	2022/3期	2023/3期		2024/3期		前年比較		2024/3期 進捗率
	3Q累計	3Q累計	通期	3Q累計	通期見通し	差異	変化率	
売上高	4,399	4,763	8,628	5,184	8,960	421	8.8%	57.9%
機能材料分野	1,904	2,149	2,832	1,910	2,510	△238	△11.1%	76.1%
医薬分野	1,621	1,725	4,259	2,133	4,850	407	23.6%	44.0%
バイオ分野	873	889	1,536	1,141	1,600	252	28.4%	71.3%
営業利益	472	880	2,163	850	1,700	△29	△3.4%	50.0%
経常利益	479	911	2,199	864	1,700	△46	△5.2%	50.9%
経常利益率	10.9%	19.1%	25.5%	16.7%	19.0%	△2.5%	—	—
当期純利益	254	628	1,542	595	1,180	△32	△5.2%	50.5%
EBITDA*	1,151	1,550	3,082	1,526	2,657	△24	△1.6%	57.4%
EBITDAマージン	26.2%	32.5%	35.7%	29.4%	29.7%	△3.1%	—	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



四半期業績推移（発生ベース）

- 3Q発生ベースでは経常利益ベースで2Q比増収微増益、対前年3Q比では減収減益
- 対2Qではバイオや機材分野の量産好調が収益を牽引するが医薬での製品構成の影響や販管費増の影響が吸収
- 販管費の増加は、顧客契約要因により新工場建設に伴って税務上の益金発生に起因するもの。損益計算書は2026/3期以降ながら、租税公課負担は今期に発生

四半期別経営成績の推移

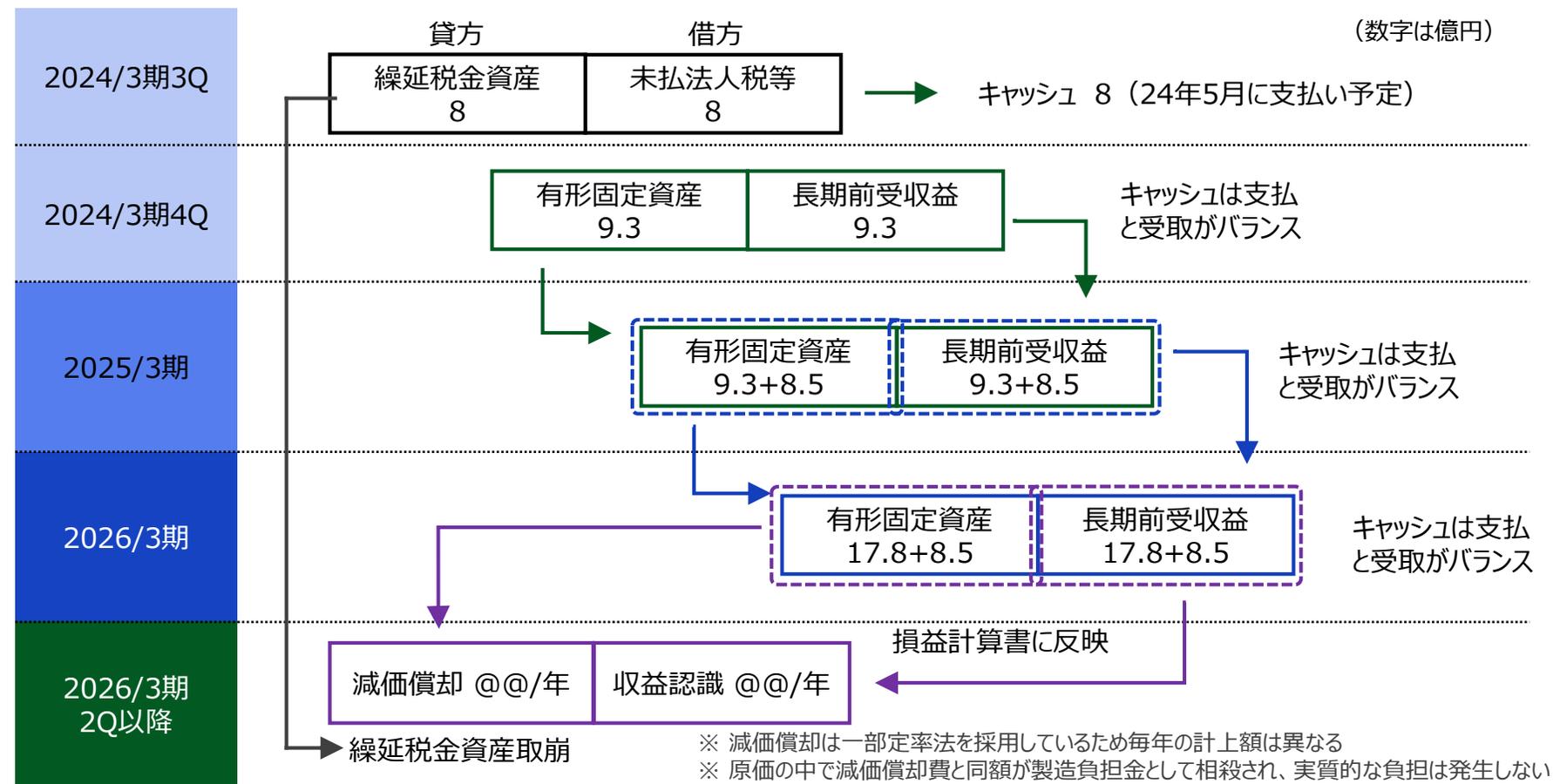
(百万円)	2022/3期				2023/3期				2024/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	975	1,866	1,556	3,041	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593	1,812
機能材料	468	717	718	954	712	603	832	682	610	576	723
医薬	228	804	588	1,665	284	553	886	2,533	923	673	535
バイオ	278	344	250	421	224	346	317	647	244	343	553
営業利益	△46	269	250	621	79	342	459	1,282	404	223	222
経常利益	△45	273	252	623	81	363	466	1,287	408	227	228
経常利益率	△4.7%	14.6%	16.2%	20.5%	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%	12.6%
当期純利益	△104	189	168	389	51	256	320	914	286	154	154
EBITDA*	168	488	493	872	293	562	695	1,532	621	448	457
EBITDA マージン	17.3%	26.2%	31.7%	28.7%	24.0%	37.4%	34.1%	39.7%	34.9%	28.1%	25.2%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



バイオリサーチセンター（BRC）新棟投資関連の財務影響

- 当社所有の特定顧客専用工場として、顧客から建設費用の提供を受ける内容で契約済
- 建設費用は約26億円程度。支払いは3回に分けて発生
- 2024/3期3Qに顧客との契約締結に伴い、建設費用全額を益金として認識。課税対象となるため、3Qで一時的に租税公課（外形標準課税）が発生し、B/S・P/Lにも影響



※ 減価償却は一部定率法を採用しているため毎年の計上額は異なる
 ※ 原価の中で減価償却費と同額が製造負担金として相殺され、実質的な負担は発生しない
 ※ 上記以外の新棟取得費用も発生見込みであり、その場合も同様に会計処理を実施する

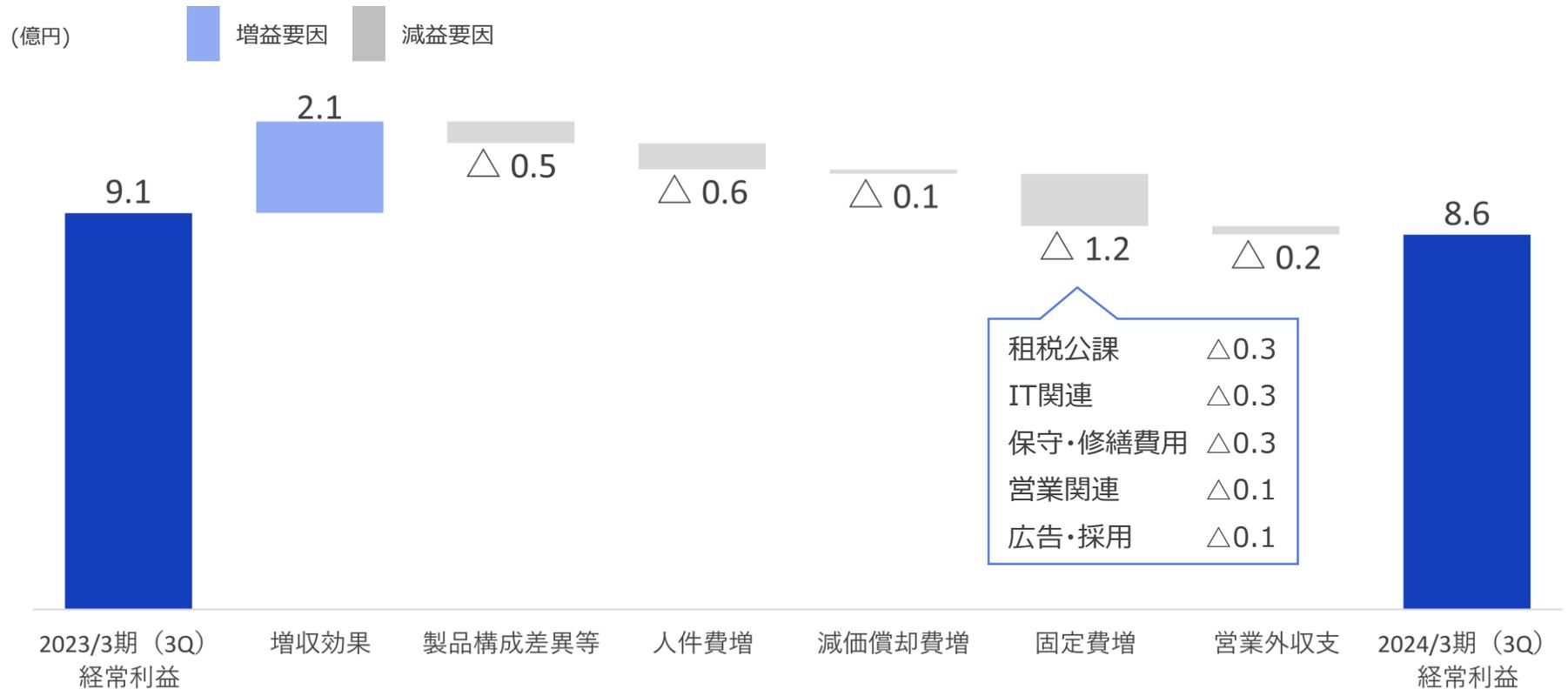


24/3期3Q累計経常利益 増減要因分析



- 対前年比経常減益の主因はコストの上昇。高水準の操業維持に必須な人件費、IT関連費などの増加に加え、租税公課などが影響。増収効果では吸収できず
- 機材分野における量産ステージの伸び悩みが収益の重石に

2024年3月期3Q経常利益の増減要因

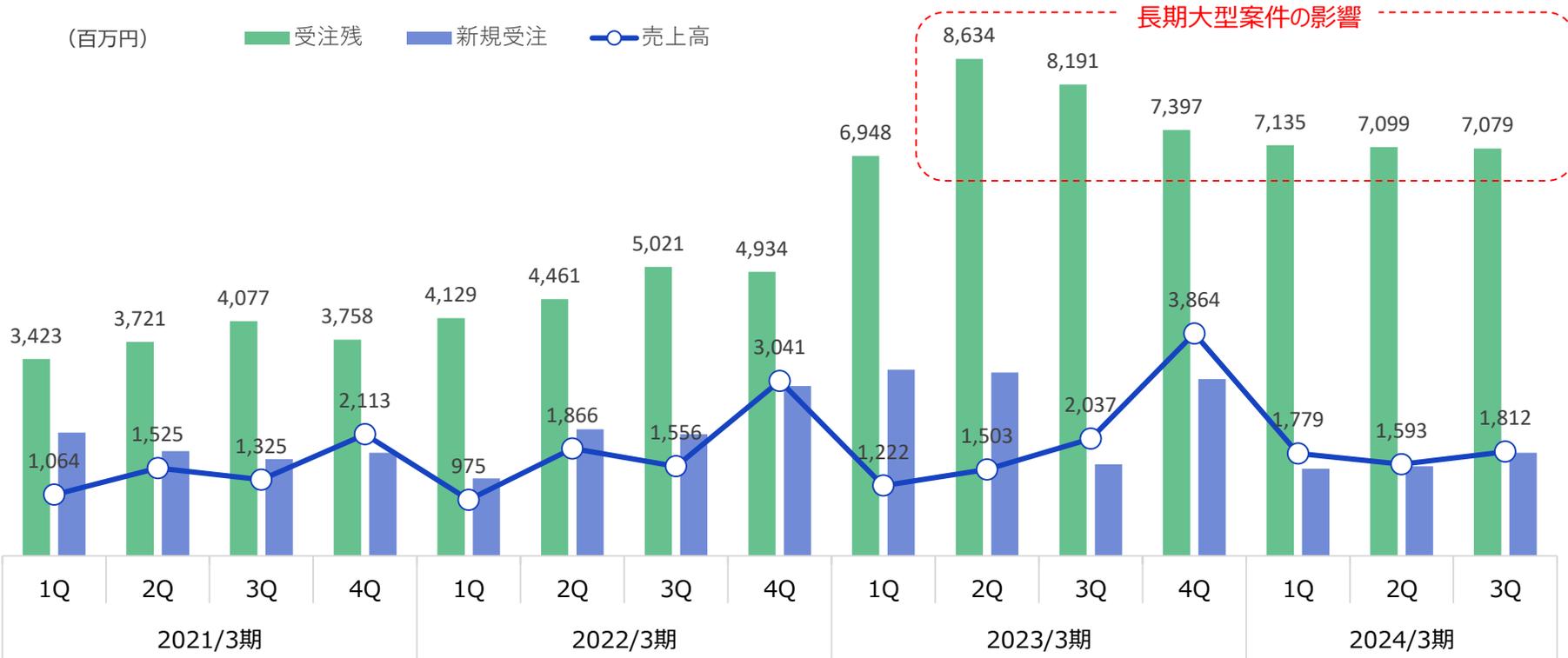




2024/3期3Q末 受注残と売上推移

- 3Q末時点の受注残は71億円。2Q末比ほぼ横ばいの推移。高水準の残高は長期大型案件の影響に伴うもの。今後、出荷進捗に従い、徐々にその水準は低下の見通し
- 一方、新規受注は生産余力がボトルネックとなり、四半期20億円弱の水準が継続。一段の成長機会獲得には機材とバイオの新規工場の確実な稼働が必須と認識

新規受注、受注残と売上高の推移



※顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず



2024/3期3Q末 財政状態

- 前期末比では、設備投資や仕掛品の増加により、総資産の拡大傾向は継続。売上債権の回収進むも、設備投資の支払い等のため14.5億円を新規に借入
- 中でもバイオ分野新棟建設に関しては、税務上の益金発生に伴い、未払法人税8億円および同額の繰延税金資産を計上
- 自己資本比率は74.3%。2Q末時点よりも低下となるものの、財務基盤の盤石性に揺るぎなし

財政状態の推移

(百万円)	2022/3期	2023/3期	2024/3期3Q	前期末差異
流動資産	6,347	7,459	7,285	△173
現預金	1,973	2,297	2,644	+347
売上債権	2,519	2,792	975	△1,816
棚卸資産	1,771	2,279	3,419	+1,139
固定資産	7,604	7,945	9,050	+1,105
繰延税金資産	268	336	1,094	+757
総資産	13,951	15,404	16,335	+931
負債	3,376	3,659	4,194	+534
有利子負債	1,676	1,536	2,152	+615
未払金/未払税	827	1,059	1,074	+15
純資産	10,575	11,745	12,141	+396
負債純資産合計	13,951	15,404	16,335	+931

前期末発生
の
売上債権回収

医薬・バイオ量産案件の仕掛品増

設備投資額：11.6億円
減価償却費：6.7億円

BRC新棟の繰延税金資産：8億円

新規借入：14.5億円

未払法人税等に7.3億円計上

自己資本比率74.3%



2. 2024年3月期通期見通し



2024/3期業績見通し

- 通期見通しは据置。期末にかけての出荷集中予定を考えれば、見通し達成は十分射程圏と認識
- ただし、期ズレなど予測不能の事態発生リスクを勘案。現時点では保守的なスタンスを採る

経営成績の推移

(百万円)	2022/3期	2023/3期		2024/3期		前年比較	
		3Q累計	通期	3Q累計	通期見通し	差異	変化率
売上高	4,399	4,763	8,628	5,184	8,960	+331	3.8%
機能材料分野	1,904	2,149	2,832	1,910	2,510	△322	△11.4%
医薬分野	1,621	1,725	4,259	2,133	4,850	+590	+13.9%
バイオ分野	873	889	1,536	1,141	1,600	+63	+4.1%
営業利益	472	880	2,163	850	1,700	△463	△21.4%
経常利益	479	911	2,199	864	1,700	△499	△22.7%
経常利益率	10.9%	19.1%	25.5%	16.7%	19.0%	△6.5pp	—
当期純利益	254	628	1,542	595	1,180	△362	△23.5%
EBITDA*	1,151	1,550	3,082	1,526	2,657	△425	△13.8%
EBITDAマージン	26.2%	32.5%	35.7%	29.4%	29.7%	△6.0pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

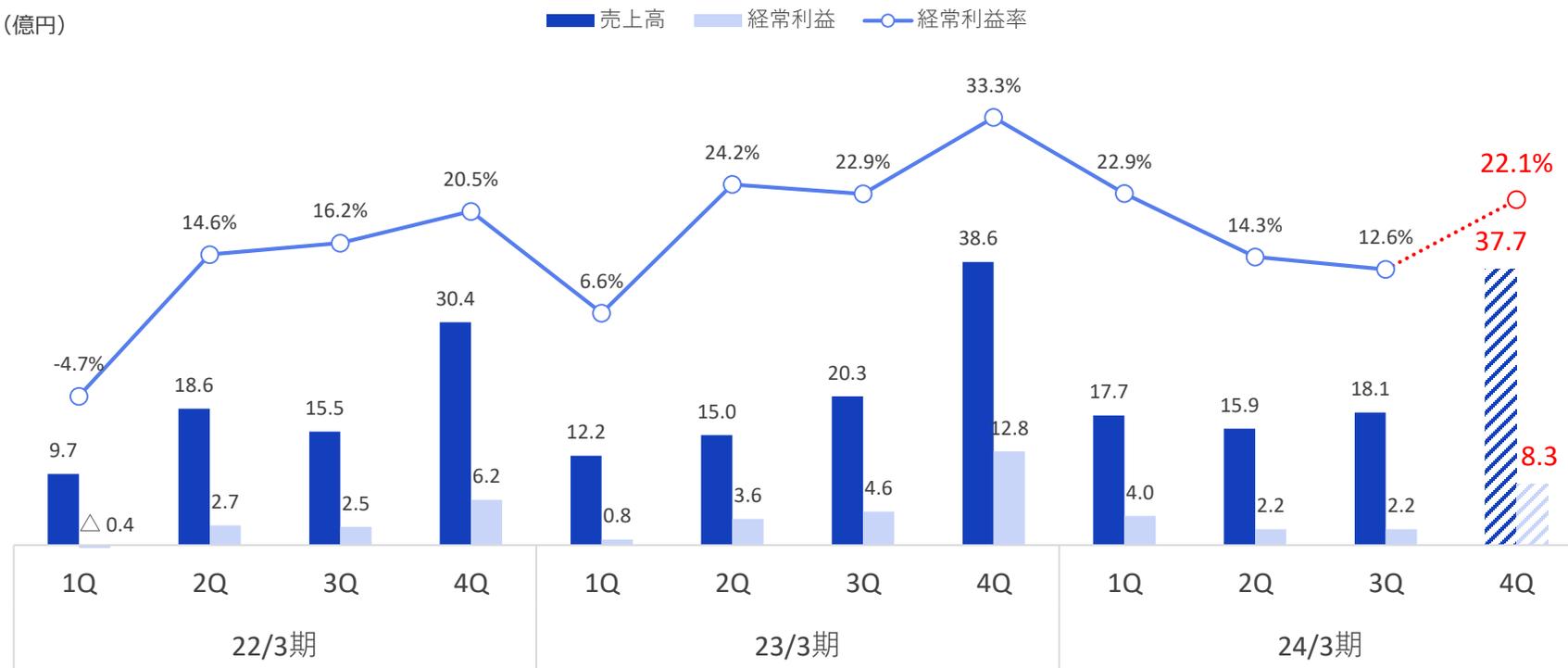


2024/3期四半期業績見通し

- 4Q発生ベースでは3Q累計に匹敵する経常利益の計上を想定。例年通り、4Qに売上・利益が集中する構図に変化なし
- しかし、前年度との比較では減収減益を想定。医薬分野の4Q偏重が幾分緩和されるうえ、前年にあった高採算案件の減少に伴う製品構成などが影響する見通し

四半期推移

(億円)



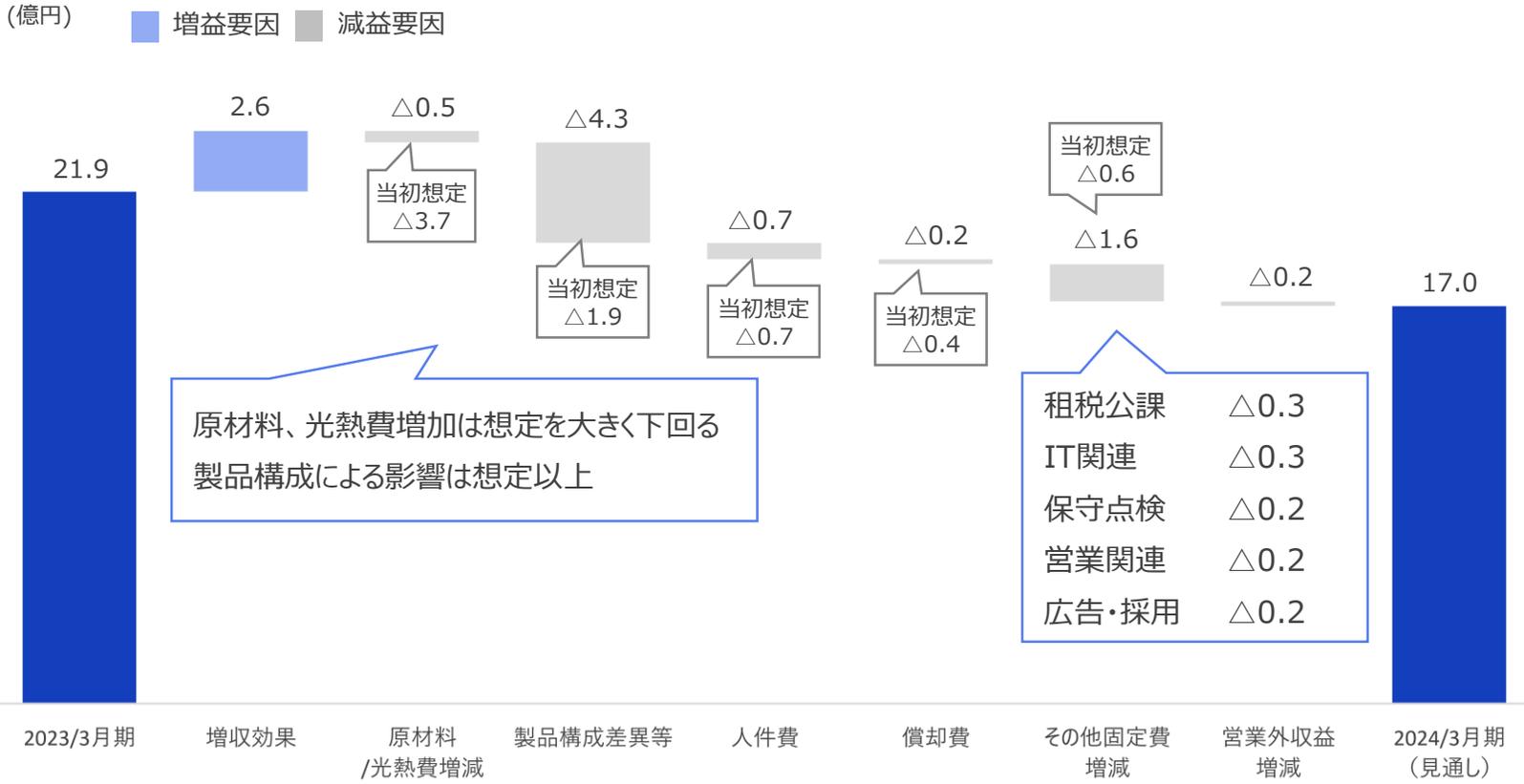


2024/3期 経常利益 想定増減要因分析



- 原材料・エネルギーコストの対前年で著しい高騰は避けられる見込みで想定を大きく下回る見込み
- 製品構成による影響は当初想定を上回るが、保守的な面もあり、期末決算に向けて縮小に努める
- 持続的成長に必要な投資的経費としてのIT関連費や営業関連費の増加に加え、租税公課など一過性の負担も重石

2024年3月期 経常利益増減要因分析





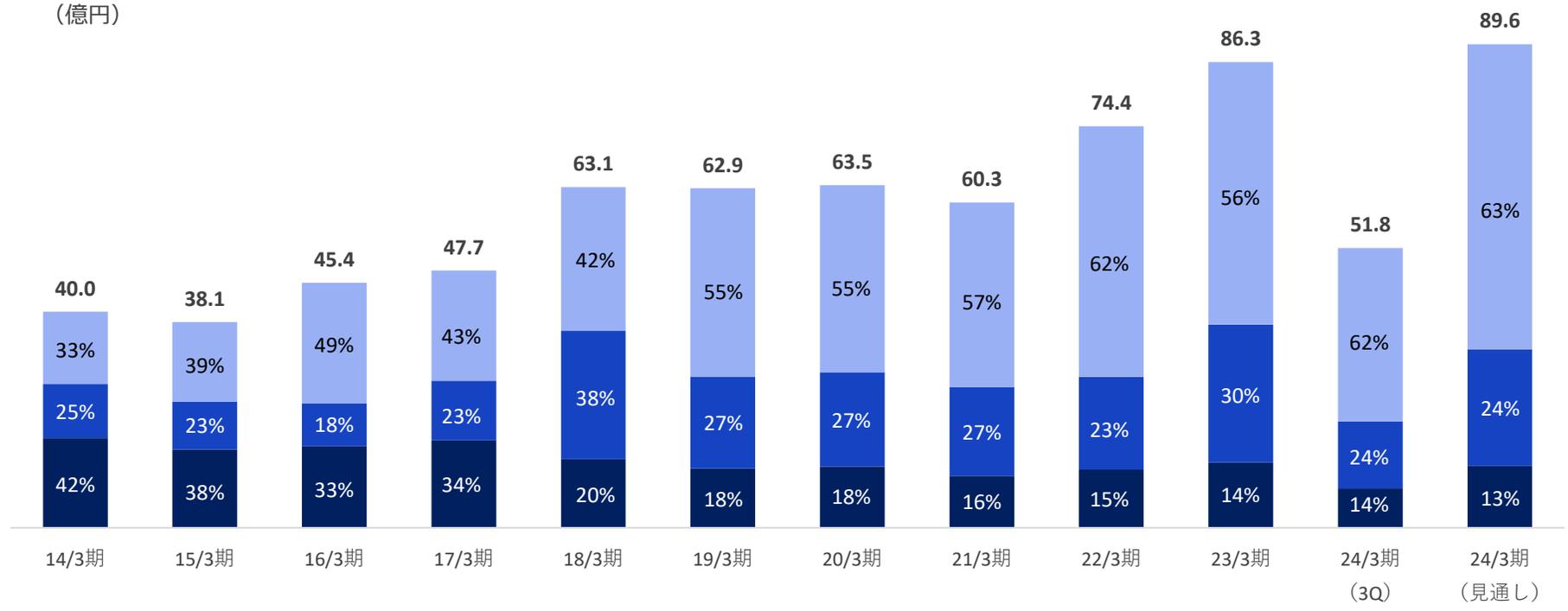
ステージ別売上見込み

- 期末の見通しは対前期で量産ステージが進捗し6割を超えて、過去最高水準となる見通し
- 量産ステージ進捗の主要因は医薬分野のステージアップ案件とバイオ分野の需要増に起因
- 研究・開発ステージは対前期で売上規模を縮小する見込みであるが、40%近い売上規模を維持できており、望ましいステージ別ポートフォリオを継続

ステージ別売上比率

■ 研究 ■ 開発 ■ 量産

(億円)

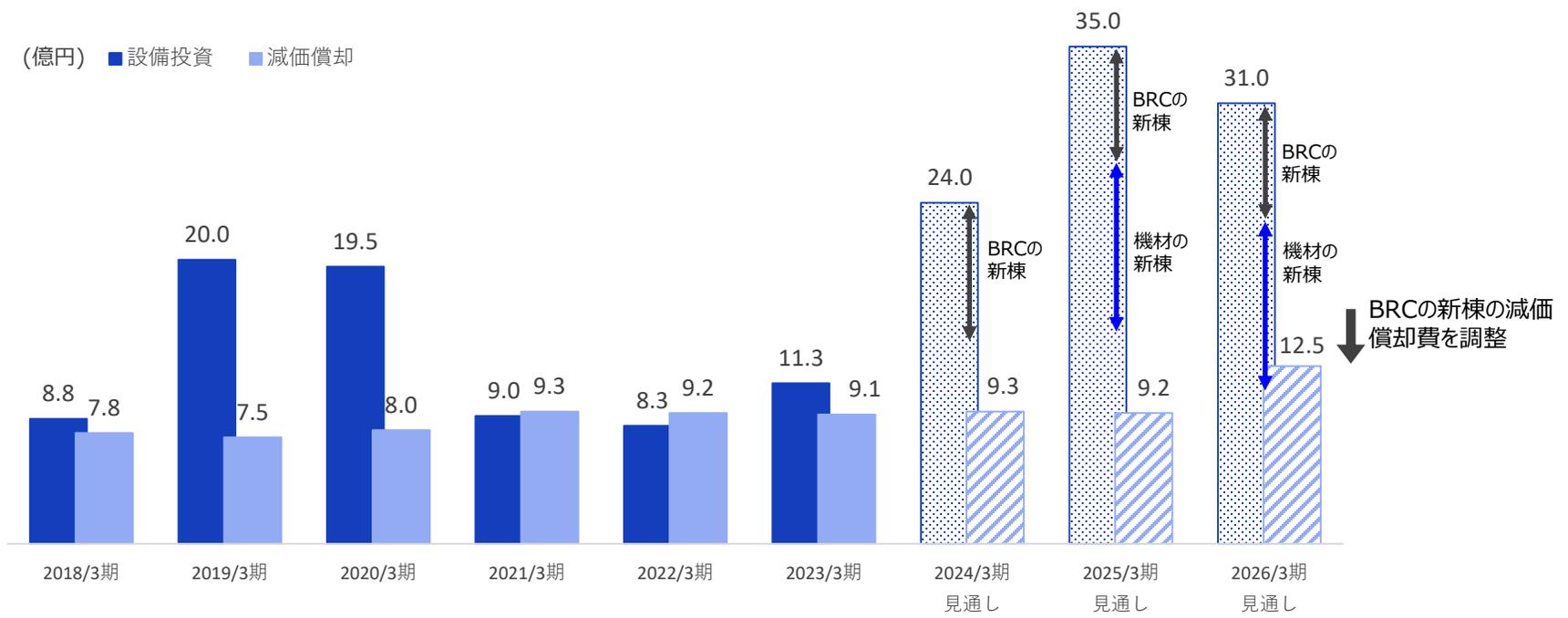




設備投資動向

- 新規設備投資額は、今後3年間で総額90億円を想定
- 機材分野で資材高騰や導入設備見直しなどにより、20億円から26億円程度に修正
- また、従来想定していたCFベースの設備投資計画期間は2026/3月期上期へと変更が発生
- 2026/3月期下期から減価償却費の負担が増加。ただしBRC新棟では実質的に負担は発生せず

設備投資(CFベース)と減価償却費の推移





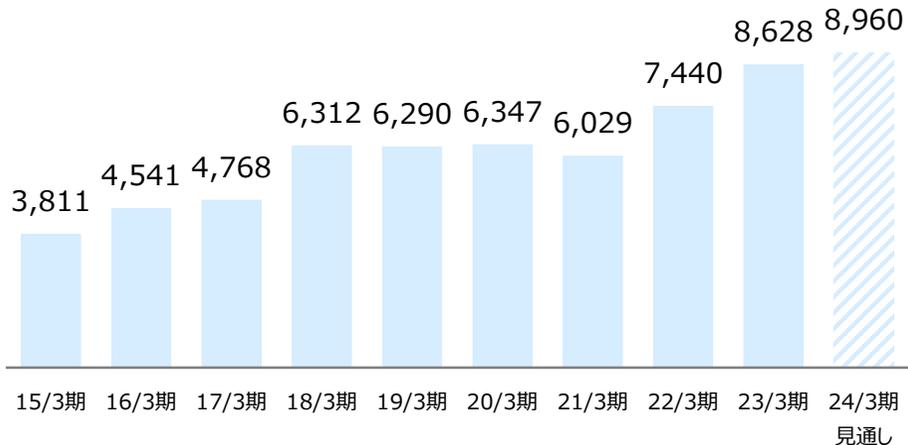
3. Appendix



業績推移

売上高

(百万円)



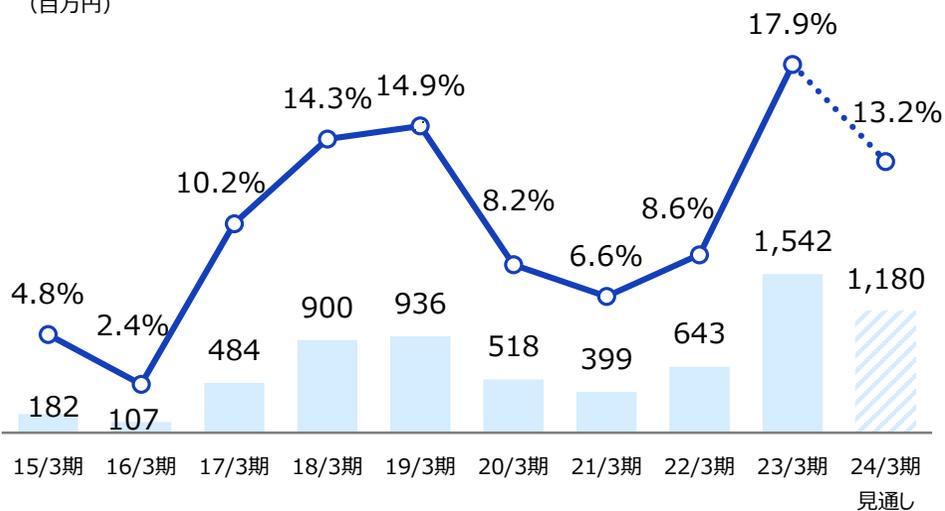
経常利益・経常利益率

(百万円)



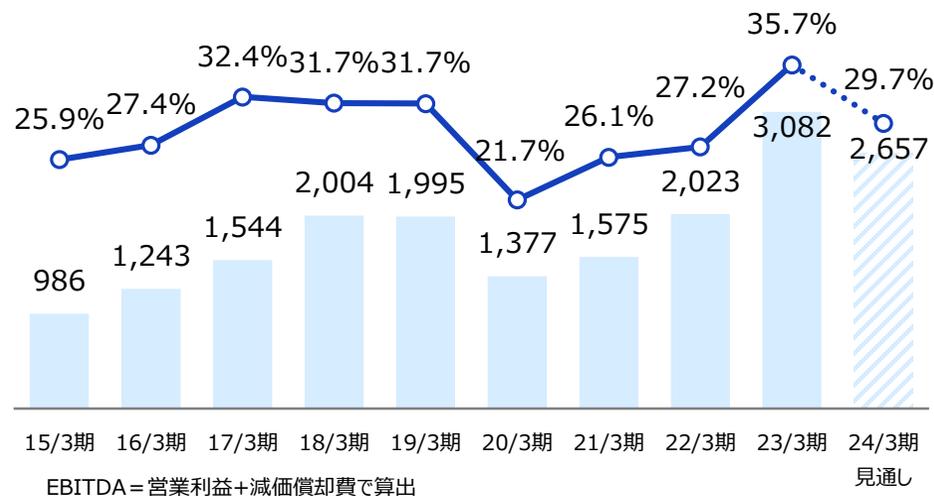
当期純利益・当期純利益率

(百万円)



EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



*2016年3月期は連結財務諸表を作成しているが、比較可能性の観点から上記は全て単体の数値を記載

項目 (単体)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期3Q
売上高 (百万円)	6,290	6,347	6,029	7,440	8,628	5,184
経常利益 (百万円)	1,285	644	677	1,102	2,199	864
当期純利益 (百万円)	936	518	399	643	1,542	595
EBITDA (百万円)	1,995	1,377	1,575	2,023	3,082	1,526
売上高経常利益率	20.4%	10.2%	11.2%	14.8%	25.5%	16.7%
売上高当期純利益率	14.9%	8.2%	6.6%	8.6%	17.9%	11.5%
EBITDAマージン*	31.7%	21.7%	26.1%	27.2%	35.7%	29.4%
現金及び預金 (百万円)	3,072	1,476	1,962	1,973	2,297	2,644
有利子負債 (百万円)	978	1,428	1,443	1,676	1,536	2,152
純資産額 (百万円)	9,454	9,827	10,120	10,575	11,745	12,141
総資産額 (百万円)	12,002	12,770	12,780	13,951	15,404	16,335
自己資本比率	78.8%	77.0%	79.2%	75.8%	76.2%	74.3%
配当性向	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	14.0%	-
役員・従業員数	270人	285人	293人	299人	300人	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 1985 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1993 ● 市川研究所開設（兵庫県神崎郡）
- 2001 ● 出雲第一工場開設（島根県出雲市）
- 2002 ● 神戸研究所開設（兵庫県神戸市）
- 2003 ● 神戸工場開設（兵庫県神戸市）
- 2005 ● KNCバイオリサーチセンター開設（兵庫県神戸市）
- 2009 ● 出雲第二工場開設（島根県出雲市）
- 2013 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
- 2014 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018 ● 東証マザーズ上場
- 2019 ● 本社・神戸研究所開設・移転
- 2020 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
- 2022 ● 東証グロース市場に移行
- 出雲第二工場品質管理棟を建設
- 2023 ● 出雲第一工場立体自動倉庫（W-11）を建設





< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp